

高等部教育目標	
イエス・キリストを通して、人と世界に仕える使命感と実力を養い、豊かな心と真摯な態度を備えた人格を培う	
探究型カリキュラム教育/学習目標	
SDGsの達成を目指し、Mastery for Serviceを体現する世界市民の一員として、国内外の社会に自ら関わり貢献できる力を育成する/身につける	
探究型カリキュラムにおける5つの学びの方針 Five Principles for Learning	
1. 自分事として <オーナーシップ/一人称>	2. 社会/実践を通して <PBL型/アクション>
3. 知識を大事に <自ら得る知識/高める関心>	4. コミュニケーションを通して <自分/他者のやりとり>
5. 生徒・教員が共に <共に探究する関係性>	
上位学習目標	
【知識・技能】	
<ul style="list-style-type: none"> 社会で用いられているAI等のテクノロジーが持つ機能や役割、実例などの基礎的な情報を自分の言葉で説明することができる 簡単なプログラムを使って実際にAIを動かすことができる 	
【思考力・判断力・表現力】	
<ul style="list-style-type: none"> 社会的課題について調べ、AI等のテクノロジー活用した解決方法を提案することができる AIが人々、社会にとって正しく活用されるための倫理的判断をすることができる テクノロジーが人間個人、社会に与える影響を考察することが出来る 上記事項について、他者に適切に提示/説明することができる 	
【学びに向かう力・人間性】	
<ul style="list-style-type: none"> AIや新たな技術開発、イノベーションについてより深く知ろうとし、それをういて解決しようとする姿勢を持つことが出来る 社会的課題に向き合う中で、AIなどに代表されるテクノロジーと上手に共生する必要があることに気づき、人間の本来の生き方について追求することができる 	
下位学習目標	
【知識・技能】 再考する余地あり！！！！	
①実際にAIを社会で活用する人を通じて、社会で用いられている実践的なAI活用に関わる知識を獲得することができる	
②社会課題解決のために、2年でAIを動かした経験と、社会課題に関わる客観的なデータを基にAIを活用した具体的な提案をすることが出来る	
【思考力・判断力・表現力】	
①AIを活用した社会課題の解決案について、議論などを通じて他者と協働して創造することができる	
②AIを活用した社会課題の解決案について、倫理的な判断を加味することができる	
【学びに向かう力・人間性】	
①AIを活用した社会課題の解決案について、他者に分かりやすく提示し、他者の考え方や生き方に影響を与えることができる	
②AIや新たな技術開発、イノベーションについて、自発的に調べ知識を追い求めることができる	
③社会課題に向き合う中で、AIなどに代表されるテクノロジーと上手に共生する必要があることに気づき、自分の生き方について追求することができる	

授業日	1/28(火)	3 学期授業回数	3 回目 / 全 6 回																				
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①② 【思考力・判断力・表現力】①②【学びに向かう力・人間性】①②③ 本時の具体的な目標 ・ 社会課題を具体的に考えることが出来る ・ 社会課題に対して AI を活用した解決策を考えることが出来る																						
時間 授業内容	発表 ・ 審査員：関西学院大学工学部 巳波弘佳教授 新明和工業 有岡献 氏 ・ 8 グループ 8 分発表+2 分 審査員との質疑応答 (上位 2 グループが翌週発表会参加)																						
評価方法	<table border="1"> <tr> <td>観点1 発表のつかみ:おっ!面白そう!</td> </tr> <tr> <td>A 5点 聴衆の関心や興味を強く引き付ける効果的な「つかみ」があった</td> </tr> <tr> <td>B 3点 聴衆の関心や興味をある程度引き付ける「つかみ」があった</td> </tr> <tr> <td>C 1点 聴衆の関心や興味を引き付ける「つかみ」があまり効果的ではなかった、もしくはなかった</td> </tr> <tr> <td>観点2 社会課題の明確さ:何が問題なのか?それはどれくらい問題なのか?</td> </tr> <tr> <td>A 5点 自分たちが対象とした社会課題の「課題感(内容や深刻さ)」がしっかりと文献などのデータに基づいているため大変明確である</td> </tr> <tr> <td>B 3点 自分たちが対象とした社会課題の「課題感(内容や深刻さ)」がある程度文献などのデータに基づいているためそれなりに分かる</td> </tr> <tr> <td>C 1点 自分たちが対象とした社会課題の「課題感(内容や深刻さ)」が文献などのデータに基づいていないため明確ではない</td> </tr> <tr> <td>観点3 AI活用の仕組み:AIがどのように社会課題解決に関わるか?</td> </tr> <tr> <td>A 5点 社会課題に対してAIがどのように活用されて(データ、機能、使用方法など)いるのかの説明が大変明確である</td> </tr> <tr> <td>B 3点 社会課題に対してAIがどのように活用されて(データ、機能、使用方法など)いるのかの説明がある程度明確である</td> </tr> <tr> <td>C 1点 社会課題に対してAIがどのように活用されて(データ、機能、使用方法など)いるのかの説明があまりなく不明確である</td> </tr> <tr> <td>観点4 AI活用の「効果」:このように社会が変わるのではないか?</td> </tr> <tr> <td>A 5点 「課題」(観点2)、それに対するAIを用いた「ソリューション」(観点3)を用いることで社会に起こる「効果」の説明が大変論理的に説明されている</td> </tr> <tr> <td>B 3点 「課題」(観点2)、それに対するAIを用いた「ソリューション」(観点3)を用いることで社会に起こる「効果」の説明がある程度論理的に説明されている</td> </tr> <tr> <td>C 1点 「課題」(観点2)、それに対するAIを用いた「ソリューション」(観点3)を用いることで社会に起こる「効果」の説明があまり論理的ではない</td> </tr> <tr> <td>観点5 フィールドスタディでの学び:自分達が得た独自のデータはこれで、このデータからこんなことが言える!!</td> </tr> <tr> <td>A 5点 フィールドスタディで得たデータの説明が明確で、そのデータがアイデアにしっかりと活かされている</td> </tr> <tr> <td>B 3点 フィールドスタディで得たデータの説明がある程度明確で、そのデータがアイデアにある程度活かされている</td> </tr> <tr> <td>C 1点 フィールドスタディで得たデータの説明がない、もしくはそのデータがあまり活かされていない</td> </tr> </table>			観点1 発表のつかみ:おっ!面白そう!	A 5点 聴衆の関心や興味を強く引き付ける効果的な「つかみ」があった	B 3点 聴衆の関心や興味をある程度引き付ける「つかみ」があった	C 1点 聴衆の関心や興味を引き付ける「つかみ」があまり効果的ではなかった、もしくはなかった	観点2 社会課題の明確さ:何が問題なのか?それはどれくらい問題なのか?	A 5点 自分たちが対象とした社会課題の「課題感(内容や深刻さ)」がしっかりと文献などのデータに基づいているため大変明確である	B 3点 自分たちが対象とした社会課題の「課題感(内容や深刻さ)」がある程度文献などのデータに基づいているためそれなりに分かる	C 1点 自分たちが対象とした社会課題の「課題感(内容や深刻さ)」が文献などのデータに基づいていないため明確ではない	観点3 AI活用の仕組み:AIがどのように社会課題解決に関わるか?	A 5点 社会課題に対してAIがどのように活用されて(データ、機能、使用方法など)いるのかの説明が大変明確である	B 3点 社会課題に対してAIがどのように活用されて(データ、機能、使用方法など)いるのかの説明がある程度明確である	C 1点 社会課題に対してAIがどのように活用されて(データ、機能、使用方法など)いるのかの説明があまりなく不明確である	観点4 AI活用の「効果」:このように社会が変わるのではないか?	A 5点 「課題」(観点2)、それに対するAIを用いた「ソリューション」(観点3)を用いることで社会に起こる「効果」の説明が大変論理的に説明されている	B 3点 「課題」(観点2)、それに対するAIを用いた「ソリューション」(観点3)を用いることで社会に起こる「効果」の説明がある程度論理的に説明されている	C 1点 「課題」(観点2)、それに対するAIを用いた「ソリューション」(観点3)を用いることで社会に起こる「効果」の説明があまり論理的ではない	観点5 フィールドスタディでの学び:自分達が得た独自のデータはこれで、このデータからこんなことが言える!!	A 5点 フィールドスタディで得たデータの説明が明確で、そのデータがアイデアにしっかりと活かされている	B 3点 フィールドスタディで得たデータの説明がある程度明確で、そのデータがアイデアにある程度活かされている	C 1点 フィールドスタディで得たデータの説明がない、もしくはそのデータがあまり活かされていない
観点1 発表のつかみ:おっ!面白そう!																							
A 5点 聴衆の関心や興味を強く引き付ける効果的な「つかみ」があった																							
B 3点 聴衆の関心や興味をある程度引き付ける「つかみ」があった																							
C 1点 聴衆の関心や興味を引き付ける「つかみ」があまり効果的ではなかった、もしくはなかった																							
観点2 社会課題の明確さ:何が問題なのか?それはどれくらい問題なのか?																							
A 5点 自分たちが対象とした社会課題の「課題感(内容や深刻さ)」がしっかりと文献などのデータに基づいているため大変明確である																							
B 3点 自分たちが対象とした社会課題の「課題感(内容や深刻さ)」がある程度文献などのデータに基づいているためそれなりに分かる																							
C 1点 自分たちが対象とした社会課題の「課題感(内容や深刻さ)」が文献などのデータに基づいていないため明確ではない																							
観点3 AI活用の仕組み:AIがどのように社会課題解決に関わるか?																							
A 5点 社会課題に対してAIがどのように活用されて(データ、機能、使用方法など)いるのかの説明が大変明確である																							
B 3点 社会課題に対してAIがどのように活用されて(データ、機能、使用方法など)いるのかの説明がある程度明確である																							
C 1点 社会課題に対してAIがどのように活用されて(データ、機能、使用方法など)いるのかの説明があまりなく不明確である																							
観点4 AI活用の「効果」:このように社会が変わるのではないか?																							
A 5点 「課題」(観点2)、それに対するAIを用いた「ソリューション」(観点3)を用いることで社会に起こる「効果」の説明が大変論理的に説明されている																							
B 3点 「課題」(観点2)、それに対するAIを用いた「ソリューション」(観点3)を用いることで社会に起こる「効果」の説明がある程度論理的に説明されている																							
C 1点 「課題」(観点2)、それに対するAIを用いた「ソリューション」(観点3)を用いることで社会に起こる「効果」の説明があまり論理的ではない																							
観点5 フィールドスタディでの学び:自分達が得た独自のデータはこれで、このデータからこんなことが言える!!																							
A 5点 フィールドスタディで得たデータの説明が明確で、そのデータがアイデアにしっかりと活かされている																							
B 3点 フィールドスタディで得たデータの説明がある程度明確で、そのデータがアイデアにある程度活かされている																							
C 1点 フィールドスタディで得たデータの説明がない、もしくはそのデータがあまり活かされていない																							
宿題指示	相互評価表																						